

---

## 著者

---

－ 著者

Hannus Salmi (フィンランド・トゥルク大学)

<https://www.utu.fi/en/people/hannu-salmi>

## デジタルについて語ること

- デジタルについて語ることは
  - virtual simulacra
  - instantaneous communication
  - ubiquitas media
  - global connectivity

を換喩的にmetonymically想起すること

Charlie Gere, *Digital Culture*, 2002

## 本書の背景・目的

- 昨今のデジタル化により、過去に対する認識、歴史の研究・発信方法が変化
- 歴史研究の枝分かれ・新興フィールドについて議論すること
  - ‘digital history’という概念が被ってきた変化

## デジタル文化とコンピュータ化の歴史の概観

- digital の語源
  - ラテン語の *digitalis* <- *digitus* 「指」：指で数えられる10以下の数字
  - 戦後、‘digit’が計算する機械と結びつけられる 0と1
  - ‘digital’ に対応する各言語に影響
- コンピュータ = 計算機（指・ペンと紙ではできない計算）
  - ニーズは大学や企業に限定

■ *There is a world market for maybe five computers*

---

- ー 「5台のコンピュータのための世界市場がある」  
(Thomas J. Watson, IBM chairman, 1943)

## テクノロジーの発展 ①

- 1970年代、マイクロチップ導入
- 1980年代、オフィス・家庭にマイクロコンピュータが普及
  - 1982年、フランスの電話回線事業ミニテル
- オンライン接続がデジタル・ヒストリーの躍進の前提条件に

## テクノロジーの発展 ②

- 1980年代、90年代初頭、冷戦終結、グローバル経済、地域を越えた情報の流通
  - コミュニケーション技術の向上、衛星・ブロードキャスト放送、インターネット
- 90年代、00年代以降、歴史研究にも波及
  - 歴史資料のデジタル化、キュレーション・サービスが定着 (→第一章)

## 1990年代に起こった変化 ①

- 90年代、chimney industryと呼ばれる伝統的な産業が終焉
  - 情報が重要なプロダクトに
    - 例：アメリカの通信政策 National Information Infrastructure (NII)
    - 情報を経済のエンジンに、という考え方が広まる。
- ヨーロッパ：1994年バンゲマン・レポート
  - 「ヨーロッパにおける情報通信インフラの整備の必要性と、その際の課題についてまとめたレポートで、1994年6月の欧州理事会で承認を得た。」(秀和システム編集部『通信ネットワーク用語事典』秀和システム、2007年、843頁)
- 註11：日本の例 「e-Japan戦略」

## 1990年代に起こった変化 ②

- 90年代の特徴：オンライン・コミュニケーションの急速な拡大
  - World Wide Webの普及、各種ブラウザを介した情報アクセスが容易に
- 電話回線（80年代） → インターネット（90年代） → ワイヤレス・モバイル（00年代以降）

## 歴史研究者・人文学研究者のニーズへの応答

- 「過去をオンライン・アクセシブルに」
- フィンランドの例
  - Sähköinen historia/ elektroninen historia = electric history
  - オンライン・リソース、歴史研究者向けの電子サービス、ティーチング・プラットフォームの作成・利用のトレンド
  - 1996年、歴史研究者・学生向けポータルサイト立ち上げ (Agricola portal)

## デジタル・ヒストリーの先駆者

- ヴァージニア・デジタル・ヒストリー・センター (VCDH) 1998年設立
  - VCDH's mission is to develop high-quality, well-researched, and reliable history materials (...) and deliver them to schools, colleges, libraries, historical societies, and the general public.
- ロイ・ローゼンツヴァイク・歴史・ニューメディアセンター (RRCHNM) 1994年設立

## デジタル・ヒストリーの定義 ①

- RRCHNMによるデジタル・ヒストリーの有名な定義：

(it) is approach to examining and representing the past that takes advantage of new communication technologies such as computers and the Web. It draws on essential features of the digital realm, such as databases, hypertextualization, and networks, to create and share historical knowledge.

「コンピュータやウェブなどの新しいコミュニケーション技術を活用して、過去を検証し、表現するアプローチです。データベース、ハイパーテキスト化、ネットワークなど、デジタル領域の本質的な特徴を利用して、歴史的な知識を創造し、共有するものです。」（DeeL無料版で翻訳）

→以降の定義づけに大きい影響

- Stephen Robertson：RRRCHNMのミッション：(...) to democratize the past (...).

## デジタル・ヒストリーの定義 ②

### – ダグラス・シューフェルト & ウィリアム・G・トマスの定義 (2009年)

Douglas Seefeldt and William G. Thomas“, What is Digital History?” *Perspectives on History*, May 2009,

<https://www.historians.org/publications-and-directories/perspectives-on-history/may-2009/what-is-digital-history> (accessed, 18. June 2021)

- digital history is an open arena of scholarly production and communication, (…).
  - digital history is a methodological approach framed by the hypertextual power (…).
  - to create a framework (…) to experience, read, and follow an argument about a major historical problem.
- 
- アメリカでは、デジタル・ヒストリーがパブリック・ヒストリーと密に結びつく
    - 新しいメディアを活用し、広いオーディエンスとコミュニケーション
    - Daniel J. Cohen and Roy Rosenzweig, *Digital History: A Guide to Gathering, Preserving, and Presenting the Past on the Web* (Philadelphia: University of Pennsylvania Press, 2006),

## デジタル・ヒストリーとデジタル・ヒューマニティーズ ①

- 2000年代、DHは人文学にITを利用するアプローチの融合体になった
- 人文学にコンピュータを使うというアイデアは冷戦後に出現
  - Humanities Computingの代表的先行例
    - ロベルト・ブサ（1949～1970年代）
    - 計量経済史（1960、70年代）
      - cf. 「近い将来、歴史家はプログラマになるか、もはや存在しなくなるかのいずれかだろう」  
ル・ロワ・ラデュリ（1968年）

## デジタル・ヒストリーとデジタル・ヒューマニティーズ ②

- デジタル・ヒストリーの複数のルーツ (forgotten or obscured by language barriers)
  - スウェーデン、1966年、Carl Göran Andræ  
歴史研究者がコンピュータを利用することの利点を説く
  - フィンランド、1968年、Viljo Rasila  
フィンランド内戦に関する研究でコンピュータを利用した分析
  - エストニア、1971年、Juhan Kahk & Enn Tarvel  
歴史研究のコンピュータ利用の可能性を議論
- 1960年代から歴史研究にコンピュータが使われてきた
- しかし、国際的に認知されるケースは少なかった
  - cf. *Computers and the Humanities* 1966年創刊

## デジタル・ヒストリーとデジタル・ヒューマニティーズ ③

- 現在のデジタル・ヒストリーは、ヒューマニティーズ・コンピューティングと（も）連続している
- 2000年のDHのブレイクスルーは、デジタル・ヒストリーの状況も変えた
  - メリッサ・テラス（エジンバラ大学）：  
DH = テクノロジーと人文学の交差点に位置している
- デジタル・ヒストリーも複数のディシプリンの交差点にある
  - 過去を扱うという点でDHよりもdiscipline-based
  - デジタル・ヒストリーはDHの領域で開発され、歴史（学）的課題を解くために応用・改良されきた  
コンピュータ技術のrepository （デジタル・ヒストリー ≠ DHの下位区分）

## 「デジタル・ヒストリーとは何か」の再定式化

- ... digital history is an approach  
to experiments with computational methods  
for the analysis, production and dissemination of historical knowledge.

デジタルヒストリーとは、  
歴史的知識の分析、生産、普及のために  
コンピュータを用いて実験する研究手法（／手法に近づこうとする態度）

## 本書の構成

- 本書の構成 : デジタル・ヒストリーを特徴づける5つの領域
  - 1. The Digital Past: Sources and Problems
  - 2. Reading and Textuality in Digital History
  - 3. Mapping und Viewing History
  - 4. Interdisciplinarity: Challenges for Research
  - 5. Presenting the Past in the Digital Age

## 発表にあたって参考にした文献

- － 秀和システム編集部『通信ネットワーク用語事典』 秀和システム、2007年
- － 長野壮一「デジタル歴史学の最新動向：フランス語圏におけるアーカイブ構築およびコミュニティ形成の事例紹介」『現代史研究』61、2015年、39–47頁
- － 山中美潮「アメリカ史研究とデジタル・ヒストリー」『立教アメリカンスタディーズ』40、2018年、7–31頁